

序

『心電図ポイント 30』を上梓してから2年が経過した。1枚の心電図から何を読み取るかを考えるテキストとして企画し、30ポイント60例の心電図が解るようにと計画したものであった。そこでさらに、心電図の波形から病態へのつながりを考える企画として、本書を出版することとなった。前書に続き、30症例の心電図を読み解くことを基本としている。その読んだ心電図の結果が、どのように他の検査結果や患者の病態に結びついているかを解説してある。文字で表わすと同じ心電図の病名がついたとしても、それぞれの患者により心電図が異なり、また他の検査結果も異なっている。それらを1枚の心電図から推察することを楽しんでいただきたいと思います。

前書『心電図ポイント 30』と同様に、本書も難しい理論には触れずに書かれている。多くのX線、心エコー、血管造影などの図を加え、実際の診療に近い形式で、心電図から診断・治療に至る経過で、病態が理解できれば何よりと考える。

また、キーワードを太字で示し、前書も含めて索引を作成した。その関連する項目についても、前書も含めて文中に示した。■は前著『心電図ポイント 30』の項目を示し、■は本書の項目を表わしている。両者の索引を引きながら、心電図を楽しく判読できれば何よりである。さらに、今回は関連する言葉の簡単な解説「メモ」を挿入した。理解を深める一端となれば幸いである。

本書が、医師を目指す人だけではなく、看護師、技師、療法士など多くの医療に携わっている人々、これから医療関連の職を目指す人々の心電図理解の一助となれば幸いである。

最後に『心電図ポイント 30』に続いて多くの難関を乗り越え、本書上梓に多大の労を尽くしてくださった有限会社ナップの亀田由紀子氏に感謝致します。

2011年3月

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
循環器内科 教授 武者 春樹